

## 脳神経内科

### I 経験、習得すべき事項

神経疾患は、局在診断と病因診断を重ね合わせることで正しい診断に到達できる。そのため、神経内科の研修では、きちんと病歴を聴取し、神経学的所見を中心とする理学所見を把握する能力を習得することに重点をおく。

(1) 頻度の高い症状

頭痛	めまい	体幹のふらつき	四肢のしびれ	四肢の麻痺・筋力低下
失神	けいれん	構音障害	歩行障害	

(2) 緊急を要する病態

意識障害	脳血管障害	てんかん重積
------	-------	--------

(3) 経験が求められる疾患・病態

脳炎・髄膜炎	てんかん	多発性硬化症	多発神経炎	重症筋無力症
脳血管障害（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血）		変性疾患（アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン疾患）		筋疾患（多発筋炎、筋ジストロフィー）

### II 当診療科における研修の特徴

受け持ち患者が入院したら、病歴と身体所見より、入院時診断と鑑別診断を考え、指導医と相談して検査・治療を計画する。回診前に新患紹介として症例を提示し、回診後のカンファレンスで方針を確認する。また、回診を通して、担当以外の患者も数多く経験して臨床能力の向上を図る。